

平成25年度第2回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議 議事録**《日 時》**

平成25年8月23日（金）15:00～17:10

《場 所》

京都市中央卸売市場第一市場 大会議室（京都市下京区朱雀分木町80）

《出席者》

別紙一覧表 参照

《議事録》**1 開会****◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）**

残暑厳しい中、お集まりいただき御礼申し上げます。ただ今より本年度第2回目となる「下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議」を開催させていただく。本日の検討会議は公開となっており、報道機関席及び傍聴席を設けているので、御了承願いたい。

それでは、ここからは谷口座長に進行をお願いしたい。

◆谷口座長

今日は暑い中、お集まりいただき御礼申し上げます。

地蔵盆の季節だが、なかなか涼しくならない。新撰組が発足して150年目の夏ということで、発足当時の夏もこんなに暑かったのだろうかと思いを馳せたところである。

新撰組は1863年に発足、69年には解散したので、活動期間は6年弱ほどである。その短い期間にこれだけ多くの人の記憶に残る、時代を変える動きを行った。「新選組になろう」などと大それたことは思わないが、我々検討会議も、しっかり議論をして、この下京区西部を変えて行く、そんな動き・取組の一つになっていきたいと考えている。

2 議事**（1）新任委員の紹介****◆谷口座長**

それでは、議事次第に沿って進行させていただく。

まずは議事（1）「新任委員の紹介」である。前回会議の後、団体内の役員交代により、新たに大内自治連合会会長の本政和好（ほんまさ かずよし）様が委員に就任された。本政委員には、簡単に自己紹介をお願いしたい。

◆本政委員

はじめまして。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

(2) 第1回検討会議の振り返り

◆谷口座長

では、議事(2)「第1回検討会議の振り返り」について、事務局から説明をお願いします。

— 事務局から、資料2に基づき説明 —

(3) 「地域連携事業」企画案について（プロジェクトチーム会議 検討内容報告）

◆谷口座長

続いて、議事(3)「『地域連携事業』企画案」についてである。

第1回検討会議から今日までの間に、プロジェクトチーム（検討会議委員、地域の協力者等で構成）で2度ほど会議を行い、地域連携事業の具体の企画について活発に議論いただいたと伺っている。その成果について、事務局から報告をお願いします。

— 事務局から、資料3 ～ 資料6に基づき説明 —

◆谷口座長

プロジェクトチームでの検討結果、企画案を御説明いただいた。昨年度は議論中心の取組であったが、今年度は、議論と平行して具体の事業にも取り組み、下京区西部エリアを盛り上げていこうということである。

私から1つ質問がある。「下京区西部エリア」という名前が対外的に訴えていくには分かりにくいということで、前回会議でエリアの広報上の呼び名について意見交換を行い、今後引き続き議論していくこととしていた。先ほどの事業企画案の中に、「京都しもにし路地めぐり」という名称案があったが、これはあくまで事業の中で作成するマップの名称であり、エリアの呼び名とは別個のものと捉えてよいか。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

議題(2)「第1回検討会議の振り返り」でも説明したとおり、「下京区西部エリア」という現在のエリアの呼び名は、堅い印象があり馴染みづらいというのが委員共通の認識である。一方、梅小路公園で整備中の新広場の名称を公募している最中であるため、その状況を踏まえた上で、またエリアの広報上の呼び名についても議論をしていきたいと考えている。

事業企画案の中でお示した「京都しもにし路地めぐり」という名称は、御指摘のとおりマップとしての名称であり、エリアの広報上の呼び名と直結させることは現時点ではない。「下京区西部エリア活性化のためのマップ」ではあまりにも無骨であるので、より親しみやすいマップの名称を提案した次第である。

◆北島委員

マップの名称について、「路地めぐり」ときくと、古い町家を訪ねるかのような印象を受ける。本当に路地奥に下京区西部エリアの魅力が隠れていると言えるのか、違和感がある。

また、マップ表紙の中央市場の写真は、あじわい館内部の様子等、別の写真に差し替えた方が良い。中央市場では一般の方は買い物ができないのだが、原案のような写真を掲載すると、買い物できるものと誤解を招く恐れがある。

◆谷口座長

ただ今の御意見について、いかがか。事務局から答えても良いが、プロジェクトチームに参加し、議論された方からも御意見を頂戴したい。

◆市村委員

6つの商店街の代表者として申し上げたいのは、エリアの中に下京の「中部」に当たる烏丸が含まれる一方で、肝心の商店街が立地する西大路以西が手薄になっていることから、「下京区西部」という呼び名に違和感があるということである。水族館のシャトルバスも満席の状態京都駅から発車するが、七条大宮の水族館前でほとんどの人が降りてしまい、もっと西の商店街まで客足が伸びていない。

そうした点から、我々西の方の商店街の者としては、平安京の大通りであった「朱雀」を名称として使って欲しいという思いがあった。ここまで議論が進んでいるのでこれ以上は言わないが、商店街でこのような意見があったということについては、御承知置き願いたい。

◆谷口座長

ひとまず、マップ名称の中の「しもにし」の部分については、御了解いただいたということとでよいと思う。

あとは「路地」の部分である。路地という言葉の印象について、皆様の御意見はいかがか。実物の路地というよりは、「皆の知らない魅力があるところ」というイメージを表した言葉とも考えられる。

◆北島委員

下京区西部エリアの特徴である「6つの資源」と「路地めぐり」という言葉のつながりが見えにくいように思う。実際の「6つの資源」は、どれも路地の奥にあるものではない。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

資料4（4ページ）にあるように、「ぶらりマップ」や「散策地図」等、名称については他にも案がある。皆様に御議論いただき、より良い案があれば、そちらに決めたいと思う。

◆中村委員

下京区西部エリアには、「6つの資源」という、非常に貴重な、しかしこれまで気づかなかった資源があるのだが、昨年度の検討会議の成果報告の中には、こうした資源を結ぶ経路が今ひとつはっきりしていないという御意見があったように思う。

通常、京都市内で「路地」というと、普通の道路よりもずっと細い、民家に挟まれた幅員2～4m程度の道をイメージすると思う。しかし、私自身としては、大通りの間を結ぶいわ

ゆる歩車共存の道（分離された歩道がなく、車も人も同じところを歩いているところ）をぶらぶらと歩き、エリアの各資源を回るといった意味で、「路地めぐり」という言葉を理解した。

「路地めぐり」の言葉の定義をこれまではっきりとはさせていないので、皆様と議論する中で決めていければと考えている。

◆谷口座長

マップ名称の議論を次回に持ち越すことは難しく、今日決めたいと思う。事務局の説明にもあったとおり、広報は「市民しんぶん10月1日号」等で行い、10月5日を事業のキックオフとしているが、紙ベースで作成するマップのスケジュールはもっと早い。

◆高梨委員

私も地域連携事業プロジェクトチーム会議に参加している。

「6つの資源」の中には、京都水族館や鉄道博物館といった新しいものに対する期待と、島原や角屋さんのような、自分たちの持つ歴史に対する誇りの両方がある。「歴史を引き継ぎながら、このまちが新しく変わっていく」ということをうまく名称に表現できると良いのではないか。検討会議の意義もまさしくそこにあると思う。

先ほど「朱雀」という言葉が出た。マップの名称について、エリアを表現するのか、自分たちが一番誇りを持っているものを表現するのか、それを今決めておいた方が良い。

◆本政委員

今思いついたのだが、「京都下京ウエストサイド物語」という名称は、どうか。

◆谷口座長

新たな名称の提案をいただいた。その他、御意見はいかがか。

◆山本芳孝委員

昨年度のまち歩きでは、路地ではなく普通の道路を歩いたように思う。

「路地」は、家と家に挟まれた細い小道という印象がある。下京区西部エリアの6つの資源を歩くときに路地は通らないので、「ぶらりマップ」等、別の表現にした方が良い。

◆谷口座長

『路地』という表現はやめた方が良い」という御意見が出たが、逆の立場で『路地』の方が良い」という御意見の方はいないか。

◆市村委員

今、京都市内は地藏盆の最中。京都というまちには、各町内にひとつの地藏さんがあるのではないかと思う。例えば、うちの向かいに路地があり、その入り口にも地藏さんがある。

「路地」という言葉の厳密な意味よりも、こうした「路地」というネーミングの持つ響きを大事にするという点から、マップの名称に「路地」を使うのは賛成である。

◆山本芳孝委員

今おっしゃった意見も一理あるが、このマップは観光客に対して広く配布するものである。京都の他エリアの方も含め、いわゆる外来者向けのガイドブックのようなものであるため、このマップを見て、生活道路に人がたくさん入りこむようになるのは良くないと思う。

グループ・団体でも歩ける観光ルートをしっかりと決め、「6つの資源」をつないで歩いてもらうことが大事。そういう意味で、「路地」とは別の表現を用いた方が良いのではないかと考えた次第である。

◆藤井委員

私も地域連携事業プロジェクトチーム会議に参加した。

「路地めぐり」という名称には若干疑問がある。マップの散策モデルコースを見ると、①と④のコースはともかく、②と③については、七本松や七条、西大路といった大きな通りが主体のコースになっており、「路地めぐり」という表現にそぐわないと思う。「ぶらりマップ」あたりの名称の方が、無難ではないか。

◆山崎委員

京都では「路地（ろじ）」のことを「ろうじ」と言う。標準語でどのような意味かと今調べてみたところ、「路地」とは、家と家の間にある住民の方が通る道（通常、人は通らない道）といった意味のようである。その点からいくと、やはり「路地」という表現には無理があるように思われる。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

「京都しもにし路地めぐり」という名称の意図を、もう一度説明させていただく。

「しもにし」の前に「京都」を付けているのは、インターネットで「京都」を検索した際ヒットしやすくなるという狙いがある。また、「路地めぐり」は、“京都らしい”イメージを前面に出す手法・テクニックとして、付けたものである。実際のマップの内容は細街路を通るようには作っておらず、実体とは違うと思われるかもしれないが、あえてこういう名称にすることで、割とスタンダードな“京都”のイメージをお持ちの方々にも受け入れやすくなるのではないかと考えた次第である。

外の方の受け・反応というところをベースに考えた案であるが、「観光の視点からはそぐわない」ということであれば、検討が必要であると思う。

◆谷口座長

「路地」は、実際の路地そのものを指しているのではなく、その言葉の持つ“京都らしい”イメージを重視したものであるという説明であった。作る側の意図が、どこまでちゃんと受け取ってもらえるかということも考える必要があるだろう。

◆本政委員

「路地」ではなく、「こみち」あるいは「こうじ（小路）」としてはどうか。

◆谷口座長

先ほど高梨委員が言われたが、このエリアには、時代の最先端をゆくものと、歴史あるものが併存している。その両方の魅力の一つの言葉で表現するのは、なかなか難しい。「路地めぐり」という名称からは、「最先端のものがある」というエリアのイメージが見えにくいような印象を受ける。一方の「ぶらりマップ」という名称は、御指摘のとおり無難な線かと思うが、あまり特徴がない。

他に、「この案で収まりそうだ」という起死回生のアイデアをお持ちの方はいないか。
なお、本政委員御提案の「ウエストサイド物語」も、もちろん活きている。

◆本政委員

「ウエストサイド物語」は、冗談であり、本気でもある。皆が意見を出してくれる端緒になったのであれば幸いである。

◆高梨委員

数年先には新しい鉄道博物館もできる。「路地」と新しさは間逆な感じがするので、もうひと工夫必要である。

「しもにし」の部分は良しとするにしても、「路地」とこの表紙写真の組み合わせからは、島原しかイメージが伝わって来ない。観光客が岡崎ではなく下京区西部に訪れるとしたら、京都水族館や梅小路といったあたりにまず魅力を感じ、実際に訪れてみたら「ちょっと古いところもあって良いね」という発見があるというストーリーだと思う。

門川市長も、岡崎を引き合いに出して「下京区西部も頑張れ」とおっしゃっている。その点からも「京都の中の新しいエリア（観光客等に新しさを感じてほしいエリア）」というアピールがもっと必要である。これから市場がどう変わっていくのかという期待感なども、「路地めぐり」という名称からは読み取れない。

表紙写真とフィットするようなキーワードがあると良いのだが。とはいえ、資料中の名称案からはなかなか選び辛い。

◆谷口座長

必ずしも、資料の案の中から選ばなければならないわけではない。

名称について、「京都しもにし」まではひとまず固まった。残りの「路地めぐり」の部分で何かひと工夫して、下京の新しさも表現できるような名前にできると良い。

◆市村委員

「京都しもにし 梅小路周辺マップ」はどうか。新しいものも古いものも入る。

◆鈴川委員

昔、「下京・町衆フォーラム」（下京に住む人と働く人、行政がそれぞれの得意分野を活かし、相互協力のもと下京区のまちづくりに継続的に取り組むための組織）で、「下京まちなみ散歩」や「下京ぶらり見て歩き」などのマップを作成した。その際感じたのが、この下京区

西部エリアには、見て楽しいポイントがいくらでもあるということである。その点からいくと、この「6つの資源」から将来的には色々なところへ滲み出してほしい、つまり「6つの資源」を契機に何度も足を運んでもらえるようなまちになるということが一番大切である。そのイメージを表す言葉としては、資料中の案の中では「ぶらり」などが当てはまると思う。

◆佐藤委員

京都に引っ越して20年になる。もとは大阪に住んでおり、最初に京都に来た時に、通りの名前が全くわからなかった。未だに地図を見ていて、「七条通」など、通りの名前に送り仮名の「り」を入れるべきか否かがわからない。

もともと京都の人間ではないため、とりわけ京都のまちは、「通り」を歩いているという実感が強い（「〇〇通を上る・下る」等）。この「通り」というのが、東京や大阪から来る人には珍しく、また、それを理解したいと思われるのではないか。そこで「京都しもにし 通（とお）りめぐり」という名称はどうか。

◆高梨委員

他にないものを出した方がいいと思う。

◆藤井委員

「京都しもにし めぐロード」はどうか。皆に呼び掛けるような思いを名称に込めた。

◆奈倉委員

発信者側の視点から「路地」という言葉の良し悪しを考えてきたが、もう一つ大切なのは、受け手の側から見てどうかということである。マップを持って実際にエリアを歩いた観光客・来訪者に、「『路地』とは全然違うじゃないか」という印象を与える可能性があるのではないか、ということも考えてみると良い。「路地」という言葉の正確性にこだわる必要性はあまりないと個人的には思うが、やはり違和感があるということであれば、「路地」は外した方が良さだろう。

その上で、「新しいもの」と「古いもの」が共存することをどう表現するのかということになると、有体だが、例えば「今昔マップ」などはどうだろうか。「ぶらり」は、本当にあてもなく歩くような感じがするので、モデルコースを示している以上、どうかと思う。

◆三輪委員

「京都しもにし ぶらぶらしまへんか」というのはどうだろうか。「マップ」「地図」という言葉を使うのではなく、名称の中で呼び掛けるような感じで。

◆谷口座長

「京都しもにし」は固定、その後続く言葉として、新たに「通（とお）りめぐり」「めぐロード」「今昔マップ」や「ぶらぶらしまへんか」という呼び掛けの形の案も出た。

◆山本委員

議論に時間がかかり過ぎている。今出た意見を黒板に書き出し、絞り込んでどうか。

— マップ名称を、会議場の黒板に筆記 —

◆谷口座長

名称案を書き出す間に、議事を進行する。

下京区西部エリアの特徴である「6つの資源」について、皆様がどんなビジョンをお持ちかをお聞きしたい。一通り御意見を伺うことで、下京区西部エリアに対して、これまでとはまた違う見方が見えてくるのではないかと思う。マップ名称については一旦保留して議事を先に進め、「6つの資源」についての議論を踏まえて戻りたいと思うが、よろしいか。

— 異議なし —

(4) 資源ごとの目指す姿と実現に向けた方策についての意見交換

◆谷口座長

それでは、議事(4)「資源ごとの目指す姿と実現に向けた方策」についてである。エリアの「6つの資源」のうち、本日は3つの資源について、皆様の御意見を頂戴したい。

3つの資源とは、「新たな賑わいを創出する梅小路公園」「京都の食文化を支える第一市場」「レトロな商店街空間」である。意見交換に先立って、簡単に事務局から説明をお願いする。

— 事務局から、資料7に基づき説明 —

◆谷口座長

今日この場で直ちに「この資源についてはこういう方向で行こう」と決めるものではなく、将来に向けた方向性や目指す姿、その実現のための方策等について、皆様からアイデアをいただきたいと思う。では、龍谷ミュージアムの太田委員からお願いする。

◆太田委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

水族館や蒸気機関車館があり、将来的には鉄道博物館の開業が計画されていることから、下京区西部エリアの集客力を考えた際の中心となるのはやはり梅小路公園であり、あらゆる広報・情報発信の「ハブ」(情報を集め、繋げる役割)の位置付けになるだろう。水族館などは現時点で既に多数の集客があるが、それをエリア全体の活性化に繋げていくには、梅小路公園をハブとした情報の展開というものを具体的に考える必要があると思う。

事前にいただいた資料の中で、梅小路公園の「目指す姿」の1つとして、「都心のオアシス」という提案があった。現状、京都で「緑」ということを考えると、京都御苑や岡崎等が先に浮かんでしまうので、今後の広報の仕方、どういう仕掛けで「都会のオアシス」というキーワードを広めていくのかということが大事ではないかと考える。

・京都の食文化を支える第一市場

市場のホームページを拝見すると、月に1回一般客が買い物できる機会や、あじわい館での様々な教室等が催されており、既に開放性を高める取組を進められているようだ。我々一般人にとって、「市場へ行く」ということの目的は何なのかと考えた時に、それは3つある。1つは、何かの企画に参加すること。2つ目は買い物。3つ目が食事である。梅小路公園の課題として「食事スペースが乏しい」ことが挙げられているが、市場は道路を挟んで公園の向かいにある。我々含め、地域の方が利用できる食事処のようなものを市場で設けることができれば、このあたりの問題を相関的に解決できるのではないかと思う。

・レトロな商店街空間

ここでいう商店街とは、どういう位置付けのものなのか。地域の方の生活に根差した商店街か、あるいは観光客等外からの来訪者を受け入れる商店街か。それによって、やること、できることがかなり違う。現時点では考えがまとまらなかったもので、御容赦願いたい。

◆花崎委員

・レトロな商店街空間

やはり、この梅小路・水族館に来た方々を、市場方面や商店街などにどう引っ張るのかということが肝要だろう。そこでキーワードになるのが、「食事」と「買い物」ではないだろうか。出掛ければ通常「食事」を必要とすることが多いし、とりわけ商店街については、夜御飯をそこで買って帰ろうと思えるような雰囲気を訪れることができればと、消費者の立場から感じている。

実際、私も「今日は親戚が集まるから魚を買いに行こうか」という時には、商店街に買いに行くことがある。下京区西部エリアの商店街の存在がもっと認知されれば、「たまには商店街に行ってみようか」という雰囲気が生まれるように思う。水族館あたりに来られる京都市在住、あるいは京都市の周辺に住んでおられる方を、どう買い物に導くか。既に行われている部分もあるかとは思いますが、そうした認知度向上の作業に注力してはどうか。

◆平野委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

梅小路公園の課題の1つに、京都駅や丹波口駅から行くには遠いということがある。「歩くまち・京都」の観点から、歩いて楽しいような、各駅と梅小路公園間の動線整備が必要ではないか。具体的には、歩道の拡幅や案内看板の更なる充実などがまず挙げられるだろう。

・京都の食文化を支える第一市場

工場見学が最近流行っている。ビール工場などでは、作っている工程が見られる上に、最後は思う存分ビールを飲んで帰れるところがあり、結構人気を博しているようだ。市場についても、業務施設が中心ではあるが、工場見学のような形で一般の人が見て回ることができるか。安心して歩けるモデルルートなどが整備されれば、見学の後には「あじわい館」や「すし市場」があるので、食事して帰ることも可能である。

・レトロな商店街空間

私は様々なエリアの中心市街地活性化の会などにに入れていただいているのだが、よくあるのが、地元で組織を作り、その組織が空き店舗の情報を一元的に管理するという方法である。「今まちにこんな店が必要だ」ということを組織の皆で議論し、ホームページ等で募集を掛けて見合った店舗を呼びこむという、「情報ストックバンク」のような取組を行ってみるのも良いかもしれない。

また、そういった地元組織が音頭を取り、各店舗共通の京都らしいデザインの日除け暖簾などを作ってはどうか。インターネットで調べたところ、暖簾は1～2万円程度あれば作れるようである。そういったアイテムで、統一感のある魅力的な景観を創出できれば、まさに「歩くまち・京都」らしい、歩いて楽しいまちになると思う。

◆中川委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園，京都の食文化を支える第一市場

私ども角屋としては、梅小路公園や水族館、蒸気機関車館そして鉄道博物館への来訪者の方が「どこか他に行くところないか」となった時に、当方へ立ち寄っていただけるようにしたい。中央市場についても、「あじわい館」や「すし市場」に当方のチラシの配架をお願いし、お帰りの際にちょっと寄っていただければと考えている。

そういう中で先般、「新撰組拝命百五十年記念」という行事を行い、8月13日（火）～18日（日）の6日間で、577人の方にお越しいただいた（1日平均96人程度）。常は20～30人程度の来訪で四苦八苦しているが、やはり「新撰組」ということで、大変暑い時期にも関わらず多くの人を引き付けたようだ。チラシでの広報もさることながら、新聞社（3社）に報道していただいたことも大きいだろう。

◆畠山委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

梅小路公園、京都水族館、蒸気機関車館、それぞれ既にお持ちの魅力が十分あろうかと思うが、先ほども御意見のあった交通の便がやはり課題だと思う。その点についての大胆な施策を何か打つのが、一番大切である。

・京都の食文化を支える第一市場

個人的な話で恐縮だが、私は石川県金沢市の出身で、金沢には近江町市場がある。この市場は、観光ガイドの雑誌等には必ず出てくる場所である。ちょうど京都駅と第一市場の距離感と同じくらいで、金沢駅から近江町市場まで車で7～8分くらいの所にあるのだが、多くの観光客が立ち寄って、新鮮な魚介類を買ったり、おいしいものを食べたりしている。そういった「買い物」「グルメ」の雰囲気前面に出さないと、活性化は難しいと思うし、逆に言えばそれが出来るのではないかという気がしている。

・レトロな商店街空間

下京区西部エリア全体の活性化を考えた時に、地域の伝統工芸等を商いにしていく商店街も一緒にやっていくんだという雰囲気がもっと盛り上がらないと、本物にはなっていない。商売・利益に結びつかないと厳しい部分はあるが、京都らしい、いわゆる伝統工芸

(例えば、念珠やろうそく、お香、扇子等)との関係は、東・西両本願寺が持っており、門前町あたりの商店街の方を取組に巻き込んでいけると良いと思う。

◆三輪委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

梅小路公園や蒸気機関車館は以前からあるが、知名度が低かったように思う。そこに京都水族館ができ、ゆくゆくは鉄道博物館も出来るということで、そのチャンスを利用して「梅小路」をもっと前面に出していく方策が必要であると感じている。

・京都の食文化を支える第一市場

本願寺もそうだが、第一市場は朝が早い。他の市場では「観光」の色を強く打ち出しているところもあるが、第一市場の場合は、実際の稼働時間帯に加え、関係者が働いている場所に一般市民が出入りできるのかという課題があるだろう。見せるためではなく、仕事としてセリをしているので、実際の仕事と観光との兼ね合いをどうするか、どう周りのニーズに応じて行くかというところを検討する必要がある。

・レトロな商店街空間

昭和レトロな空間というが、年号が平成に変わって25年経っているので、昭和を懐かしく思うのは私たちくらいだろう。平成元年生まれの方はもう25歳であるので、何をもって「レトロ」というのかを考える必要がある。また、目指す姿の1つに「大型施設では味わえないそぞろ歩きを楽しむ空間」と提案されているように、大型施設にはない個別対応の良さを、商店街のアピールポイントとして打ち出していったらどうか。私どもも門前町との連携の仕方というものを模索しているところである。

◆西村委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

七条学区の自治連合会会長をしている。当学区は下京で最も人口が多く、3,400世帯、7,000名ほどの規模になる。立場上、梅小路公園に関する住民の声をきくことがあるのだが、割と年配の方が多く、散策する感覚で公園の広場をよく活用されているようである。検討会議委員の1人として、梅小路公園の今後について色々と考えてはいるのだが、地元としては、そのような活用をさせていただいているというのが現状である。

・レトロな商店街空間

私は七条中央サービス会という商店街の会員の一人でもあるため、地元商店街の活性化を非常に気にしている。今、若い方がリードしてなかなか斬新な会の進め方をされており、敬意を表しているが、6つの商店街は地元の方が使いやすい商店街であることがまず大切である。梅小路公園、水族館等への来訪者の方をこちらに引き込もうとすることよりも、地元の方を大事にする商店街であってほしいと思う。

七条通商店街では10月5日に、画期的な催し「梅小路いきいきフェスタ」を挙げる。こうしたイベントを行うと非常に多くの地元の方が参加されるのだが、この人出はイベント時の一過性のものであって、常日頃は惨憺たるものである。日常、どのような活動をするのかということが大事になってくるだろう。商店街の会員全員が結束して、商店街の現

状と事態の深刻さを共有し、「これではいかん」という気持ちになって取り組まないといけない。商店街については、また色々と皆様に御相談をしていきたいと思う。

◆本政委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園、レトロな商店街空間

資料に載っている梅小路公園、京都水族館、蒸気機関車館は、いずれも大内学区にある施設である。水族館の集客力は凄まじく、驚くほどであるが、その分地元としては迷惑も被っている。その辺りはともかく、これだけ多くの人があるから商店街ももっと活気づくのではないかと期待していたが、一向に商店街は潤っていない。市村委員に音頭を取っていただいているが、肝心の各商店の店主がなかなか動こうとしない。高齢化や後継者難もあるだろうが、商店街の動きがあまりに悪いので、我々地元住民は実はイライラしている。とはいっても、こちらにお金があるわけではなく、どうしようもないというのが現状だと思う。今日も、商店街の活性化と下京区西部エリア全体の活性化とをどう結び付けていくのかという話をしているが、「笛吹けど踊らず」というのが現実である。それを踏まえた上で活性化に結び付く妙案が出れば、非常に結構だと考えている。

◆鈴川委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

エリアの活性化ということで、やはり外からの集客・誘致という点から考えるべきではないかと思う。そういう意味では、梅小路公園、京都水族館、蒸気機関車館はかなり多くの人がある場所である。これまでも梅小路公園で様々な催しが行われているが、水族館・蒸気機関車館に来られるファミリー層を意識した催しを行ってはどうか。

・京都の食文化を支える第一市場

やはり「食事」と「買い物」が大切なキーワードである。京都リサーチパークから市場の方へ昼御飯を食べにいくことがあるのだが、例えば、外国人をターゲットとした食事処などが整備されると、イメージが変わると思う。また、卸売市場なのでイベント時を除き通常一般の方が入場できないことは分かるが、例えば、築地のまぐろのセリを外国人観光客が早朝から見に訪れるように、実際の商売の邪魔にならないような形で何らかオリジナルティのある取組・仕掛けづくりができるのではないか。外から人を呼び込むのであれば、モトラやその他の車と歩行者との共存に向け、インフラ整備が必要であると思う。

・レトロな商店街空間

京都リサーチパークでは、若手の伝統工芸職人の育成を目的に、「買う側がどのような情報を求めているか」といった商売についての研修等を行う「職人工房」を開設している。職人がお客さんに対して新製品やブランドを発信していく中で、商店街とタグを組むことができれば、京都の新しい魅力を打ち出していけるのではないかと感じた。

◆山本芳孝委員

・レトロな商店街空間

私は旅行業に携わっているので、下京区西部エリアに全国、あるいは海外から観光客を

たくさん集め、しっかり稼いでいくことが大事だと思う。今ちょうど、人を集めるための情報発信（マップ等）に取り組みつつあるが、そういった取組が賑わいをもたらし、ひいてはエリアの活性化に繋がっていくと思う。しかし、人がたくさん来るだけでは活性化とは言えず、やはり地元にお金が落ちることが大切である。先ほど自治連の方が「イライラする」とおっしゃっていた。人がたくさん来てゴミばかり増え、通りが賑やかになって交通事故が起きやすくなるということでは、地元で迷惑が掛かっているだけである。地元の人も頑張っていて、いかに商店街を盛り上げるかという自主努力をしなければならないが、検討会議でもマップ配布等の次の段階として、商店街活性化をテーマの1つとして取りあげてはどうか。地元商店街の活性化に向けた全国の成功例を集めて、「観光客を主体に人を呼び集め、金を落としてもらおう」あるいは「このエリアは、地元住民のためのマーケットである」といった的確なアドバイスをしていくことが必要であると思う。

◆高梨委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

総合公園である梅小路公園は、市民の方が使われる公園なのだが、水族館があり、今後鉄道博物館もできることから、広域から人を引っ張ってくる機能を併せ持っており、普通の公園とは違った性格の公園であると言える。

京都の観光地の多くはどちらかというと大人向けであるが、水族館や蒸気機関車館（いずれは鉄道博物館）などファミリー層が主なターゲットとなる施設が集まる梅小路公園は、京都の他エリアにはない特徴を有している。今後、子供を大事にしながら公園をどう育てていくかということが、大きなポイントとなるだろう。鉄道関係者にとっての嵯峨野線の路線イメージ（どういう人たちを引っ張っているのか）も、ファミリーや子供を大事にしながらということがテーマになってくると思うので、子供たちが楽しめる、他とは違ったワンダーランドのような形の特別なテーマを持った公園にできると良い。一方で、「朱雀」というこれまでに培った公園の品格、緑豊かな立派な公園のイメージとどう折り合いをつけるかということも考えねばならないだろう。

・京都の食文化を支える第一市場、レトロな商店街

この市場は物流が主体なので、そもそも観光向けの施設ではない。同じ中央卸売市場でも、築地が少し特殊な例なのだと思う。市場としても、これから「観光」をどう考えていくのかということがポイントとなっていくのだろう。

商店街がレトロかどうかということはさておき。本来は地元の方が使う場所であるので、観光の側面、遠くから人を引っ張ってくるということを、皆が必要だと認知するところからスタートしていく必要がある。梅小路に年間300万人を超える人が集まるとなれば様々な問題が起きてくるので、地元の方々と、観光に対する地域マネジメントのようなことにちゃんと取り組んでいかねばならないと思う。

子供を大事にするのであれば、商店街もあんなに狭い道では危ないので、少し車道を狭くするなど、ファミリーが来ても楽しく安全に買い物ができるような整備が必要だろう。

梅小路公園に第一市場に商店街と、一つひとつは別の問題だが、ばらばらに考えるのではなく、地域全体で同じ目的を共有しながら取り組んでいく必要がある。第一市場では最

近、あじわい館をはじめ、外の人に向けた魅力発信を行っているが、市場単体で取り組むのではなく、地域にとって観光集客というものをどこまで大事に思うかというところから出発してはどうか。将来、そのことで問題が起こるような事態にならないよう、皆で地域のマネジメントをし、プロモーションやターゲットの考察、来訪者にもっと楽しんでもらうためにはどうしたら良いかというホスピタリティを考えていくと良いと思う。

◆谷口座長

時間が押してきたため、次からはお1人あたり2分程度で願います。言い足りないことがあれば、後で書面やメールで事務局にお寄せいただければと思う。

◆藤井委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

緑化協会は梅小路公園の指定管理者になっており、私自身、平成3年くらいに梅小路公園の整備を担当した経験がある。その時は、「梅小路」のことを京都市民はほとんど御存知なかったように思う。私も実際、蒸気機関車館があることは知っていたが、見たことはなかった。そこから考えると、課題として挙げられている「知名度の低さ」というのは、この20年ですごく変わってきていると思う。

今後鉄道博物館が開業すれば、その吸引力というのはすごいと思うので、逆に、人がどれだけ多くなってしまおうのかという心配をしていくべきではないか。梅小路の集客を周辺地域にどう導いていくかがポイントになると思う。

・京都の食文化を支える第一市場

大切な京都の台所であるが、周りから見たときに美しさが全くない。お客さんを入れるための動線などをうまく工夫することで、市場は楽しい場所になれるのではないか。一般の人が入れる所・入れない所をしっかりと分けて、安全に美しく整備することが必要である。

◆高木委員

これまでの御発言で、我々中央市場に対し様々な貴重な御提案をいただき、御礼申し上げます。ぜひ参考にさせていただきたい。時間も限られているので、3つの資源についてまとめてお話をさせていただく。

梅小路公園は、鉄道博物館ができると、間違いなくアミューズメントゾーン、それも長時間滞在していただけるようなエリアになるだろう。そこで、昼間のみならず夜間まで滞在できるように、例えば、夜間コンサートやライトアップ（光のアートやイルミネーション等）を行うなどの仕掛けをしてはどうか。その際、公園にお越しいただいた方々に、我々中央市場の食材を使ったおいしい食べ物を提供する等の連携ができると良い。それもぜひ商店街の皆様が中心となって、新鮮な魚介類を使ったバーベキュー等のお店を出していただくことができれば、なおよいと考えている。

◆北島委員

だいたい意見は出尽くした。皆様のおっしゃるとおりだと思う。

私からは1点情報提供をさせていただく。梅小路公園の向かいに「京果会館」という施設がある。この施設がリニューアルオープンすることとなり、先週土曜日に広報発表等があった。1階には飲食店、2階には食に関する専門店が合わせて20店舗ほど入り、3階には食に関するセミナーやイベント、教室に使えるスペースができる予定である。道路を挟んで公園のすぐ目の前にあるので使い勝手も良く、先ほどから御指摘のあった「食事処」については、ここでかなりの部分がまかなえるのではないかと考える次第である。

また、市場に関して、食事ができる・できないといった御意見が複数あったが、今回の会議で使っているこの棟もその周りの棟にも、食堂や喫茶店はたくさんある。実際にはいつでも市場で食事ができるのであるが、その動線あるいはPRがまだ出来ていない。市場は朝のまちであり、安くておいしいものを、どなたでも入って召し上がっていただける。

全体について、結局、下京区西部エリアの何を活性化するのか、まだ分からないところがある。住民の方や自治会、学区、商店街がまず活性化され、それぞれの資源が活性化され、その後に観光が充実して…という順序なのか。あるいは、それらを同時に進めていくべきなのかとも思うが、この辺り、まだ自分自身の中で咀嚼しきれていないところがある。

◆山崎委員

先の議題にあったエリアマップについてだが、当方が運営を担う「京都総合観光案内所」では、新幹線を待つ1～2時間の間にどこか観光できる場所はないかというような質問をたくさんいただいている。そうした方に下京区西部エリアへ足をのばしていただける新たなツールとして、良い媒体を作ったと感じている。

今、まちおこしや観光に積極的に取り組む地域では必ずグルメに視点を置いており、例えば、地域で何か1つ名物を作ってPR等を行っている。このエリアでも、今後「グルメ」の視点到注力するのが良いと思う。錦市場では、かつて「うちは高級料理店にしか卸さへん」と言っていたものだが、今では観光客がぞろぞろと歩くエリアになっている。売り物についても皆頭を切り替えて、その場で立ち食いができるようなもの（例えば串に刺したアユの塩焼き等）をどんどん開発している。そういった例も参考にしてみようか。

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

「公園・水族館・蒸気機関車館の連携がない」ということが課題に挙げられているが、実は、水族館とよしもと祇園花月が連携し、スタンプラリーのようなことを行っている。

「京の冬の旅」でもすべてのポイントを巡ると景品が当たるスタンプラリーを実施しているが、行きにくい場所も必ず入れて、無理やり周ってもらうような仕組みを作っている。そういうスタンプラリーのような取組もひとつ考えてみてはどうか。

今年4月の「さくらよさこい」は、梅小路公園がメイン会場であった。また、6月の「京都・まち美化大作戦」は初めて下京区西部エリアが会場となり、何千人もの人が参加する3月の「ツーデーウォーク」も、このエリアが候補の1つになっているようである。下京区西部エリア活性化のメッセージは確実に伝わってきていると思うので、数年後には、もっといろいろな活性化の取組が進むのではないかと期待している。

◆中村委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

今年度の検討会議の最も大きな目標は、下京区西部エリア活性化のための基本構想の素案を皆で考え、作り上げるということである。構想素案づくりに当たっては、もちろん目の前のすぐ取り組めることに着目するのも重要だが、10～20年先のこのエリアがどのようなになっているのかという視点も大事である。その際、やはりエリアの中心になるのは梅小路公園界隈だと思う。

梅小路公園には、これまでに一定の資本が投入されており、また、これからも予定されている。人も金も集まっている場所であるので、太田委員の御意見にもあったように、ここがエリアのハブとなっていこう。ただし、年間300万人の集客がある割には、交通アクセス面に若干の不安がある。長い目で見て、そのあたりのことも考えていきたい。

・京都の食文化を支える第一市場

先ほど金沢の近江町市場のお話があった。同じ市場という名前は付いているが、今の中央市場は、本来の目的である業務用に特化している。他の委員の御意見に、ちょっと足りないものとして「買い物」や「食事」といったキーワードが出ていたが、10～20年先をにらんだ時に、ここに集う人の規模に対して、どんな施設が望ましいのか。あるいは、もう少し他の施設・機能も将来的にはあった方が良いのかといったことも考えていくと良いと思う。

・レトロな商店街

これだけ商店街が集まっている所は市内にも例が少ないと思うので、外からの期待は非常に大きいと思われるが、個々の商店さんでは、高齢化や後継者の問題など、様々な課題を抱えておられるのが現状だろう。

商店街の方々のお話をしっかり聞く必要があると感じた。

◆奈倉委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

梅小路については、現状水族館があり、さらに今後鉄道博物館が開業すれば、放っておいても人が来る。集まった来訪者にどうやって周辺を回遊してもらうかということを見ると、案内所の設置、あるいはマップを手にとって「この先どこへ行こうか」と思っただけのような仕掛けが必要である。また、梅小路公園で今後、継続的なイベントを計画的に実施していくこと、そして、それを誰かが一元的に企画するという機能も必要になってくると思う。

・京都の食文化を支える第一市場、レトロな商店街空間

梅小路に来たたくさんの方が周辺を回遊すれば、そこには飲食が伴ってくる。「飲食」をメインの切り口として活性化を図るのが、一番実現性が高いと思う。例えば、商店街で一元的に空き店舗等を管理し、そこへ飲食関係の店舗・スペースをはめ込んでいくというような仕掛けができないか。また、同じ「飲食」の切り口で卸売市場を考えると、訪れた方が楽しめるような「小売」の機能を何らか整える必要があると思う。近江町市場や築地・札幌等の場外市場を参考に、卸売ではない所で新鮮な魚介が安く買える、あるいはその場

で味わえるといったことも考えると、全体的に活性化が図られていくと思う。

◆佐藤委員

3つの資源について、資源間の連携という視点も大事だが、もう一度それぞれの立場でどう集客するかということ、ターゲットを絞って考えた方が良い。例えば、梅小路公園には市内在住の方やイベント目当ての方が来られて、一日ゆっくり公園内で過ごす人が多いのではないだろうか。市場であれば、そこで働いている方々、あるいは市場で買い物をされる業者の方々などがメインであり、その方たちが気持ちよく商品を売買できるという本来の目的に沿った取組を行うのが肝要である。商店街は、先ほども御意見のあったように、海外の観光客を集めるような仕組みを考えるなどしてはどうか。私どもリサーチパーク、大阪ガスもそうだが、利用目的を持った来訪者の集客というものを最初に考えるべきだと思う。

◆市村委員

・新たな賑わいを創出する梅小路公園

私が子供の頃、梅小路公園は石炭とコークスのボタ山の地域だった。その公園が緑化され、水族館ができ、将来は鉄道博物館もできるということ自体が、急激な進展であるように感じている。公園の再整備に当たっては地元で大分反対があったが、私は商店街の人間として千載一遇のチャンスだと考えた。それまで仲の良かった反対派の人に「我々地域の人間がこれだけ困って反対しているのに、あなたは商売のために賛成するのか」と言われ大喧嘩したこともあったが、それでも私は、我々の地域、商売人には大変な画期的なことだと思い賛成した。ただし、地域の皆様に御迷惑がかからないよう、後の対策だけは市や水族館とともに私も考えていくという意気込みである。私にとって、梅小路というのはそういう存在である。

・レトロな商店街空間

各商店連盟の副会長をしている。伏見の大手筋や錦市場のように観光客が見学に来る商店街もたくさん知っているが、梅小路界隈の6つの商店街は昭和の中頃と比べると買い物客が激減しており、ひとつひとつの商店街の足腰が弱っている。そんな中、梅小路公園の再整備を契機に各商店街が連携して「梅小路活性化委員会」を立ち上げ、1つの商店街では不可能でも、6つがまとまることによって可能なことというのが出てきた。そのひとつが、地元の5つの小学校との連携による「梅小路いきいき学習」であり、商店街を児童の体験学習の場として活用する事業を行っている。商店街は何もしていないように思われるかもしれないが、今、我々は、活性化に向け種を蒔いているところである。商店街の活性化、ひいてはエリア全体の活性化を目指して頑張っていきたいという意気込みだけは持っているのです、これからも御理解・御協力をいただきたい。

◆谷口座長

時間配分が悪くて申し訳ない。発表が短くなってしまった方にお詫び申し上げます。話しきれなかったことがあれば、どんな形でも良いのでぜひ事務局へ御意見いただければと思う。

梅小路公園は年間300万人が集まり、エリアのハブとなりうる資源である。そして、中

中央卸売市場は、京都の食を一手に握っており、今の時代、最も関心も持たれている大切な分野である。あとはそれをどう表現していくのかということがカギになるだろう。

そして、やはり気になるのは商店街のことである。過去の検討会議の中で、「住んで良い下京区西部」なのか「訪れて良い下京区西部」なのかという話をしたことがある。両方備われば一番良いのだろうが、そう考えると、単純に梅小路の集客を商店街へ引っ張りさえすれば良いということにはならないだろう。下京区西部エリアの顧客に対してどうサービスを提供するのか。もしくは、京都全体に対してどうサービスを提供するのか。そのあたりを含めて商店街の活性化を考えていく必要があるのではないかと。観光のみならず、「暮らしよい」下京区西部エリアをいかにつくっていくのかということが、今後の大きな課題になると思う。

議事をマップ名称の件に戻す。皆様からいただいた御意見を黒板に書き出したところであるが、ここでひとつ提案がある。今の京都で下京区西部を売り出して行くのに適切な言葉というものがあるかと思うので、今日皆様からいただいた思いや御意見を事務局に引き取っていただき、キャッチコピーの類に明るい委託事業者も交えて、お任せしてはどうだろうか。

— 異議なし —

マップ名称はエリアの呼び名・愛称とは別個のものであるが、わかりやすく受けが良いということになれば、検討会議での議論を経て、エリアの名前になる可能性もあるだろう。

では、最後に議題（５）「その他」として、中央卸売市場から１件御報告をお願いする。

◆京都市中央卸売市場第一市場 高木次長

— 「京都市中央卸売市場第一市場施設整備基本構想(仮称)検討会議の設置について、資料説明 —

◆谷口座長

重要な資源の１つである中央卸売市場も、将来に向け、大きな変化を迎えつつある。検討会議が立ち上がり施設整備の構想を検討していくということなので、足並みを揃えてお互いを活かせる計画を作っていけたらと思う。

本日の議事はこれで終了である。時間配分の関係で十分議論できなかった部分もあったかと思う。マップの名称は、単に言葉を決めるだけではなく、このエリアを皆様方がどう見ておられるのかということ、エリアの深堀り・再認識の時間にもなったのではないかと。

では、事務局に進行をお返す。

◆事務局（京都市総合企画局市民協働政策推進室 三科プロジェクト第三課長）

マップの名称が宿題として残ってしまった。事務局としては、今後マップを活用したウォーキングツアーなども展開していくので、事業名称としても通じるよう「〇〇マップ」といった単純な形は避けたいと考えている。

次回、第３回会議については、９月２４日（火）の開催を予定している。場所等が決まり次第、事務局から改めて連絡するので、引き続き御協力をお願いしたい。

それでは、本日はこれで閉会とさせていただきます。

平成25年度第2回 下京区西部エリアの活性化を目指す検討会議
出席者一覧

(五十音順, 敬称略)

	団体名	役職名	氏名
座 長	コミュニティデザイン研究室 同志社大学大学院総合政策科学研究科	代表 客員教授	谷口 知弘
	梅小路活性化委員会	委員長	市村 勝
	大阪ガス(株)	京都地区副支配人, コミュニティ室長	佐藤 尚巧
	京都駅ビル開発(株)	取締役営業部長	奈倉 宏治
	京都市	下京区長	山本 耕治(代理)
	京都市	総合企画局プロジェクト推進担当部長	中村 豊彦
	(公社)京都市観光協会	事務局長	山崎 晶子
	京都市中央卸売市場協会	専務理事	北島 誠一
	京都市中央卸売市場第一市場	次長	高木 淳
	(公財)京都市都市緑化協会	専務理事	藤井 俊志
	(特活)京都・地球みらい機構	常務理事	高梨 日出夫
	京都府旅行業協同組合	理事長	山本 芳孝
	京都リサーチパーク(株)	営業部長	鈴川 和哉
	自治連合会〈大内自治連合会〉	会長	本政 和好
	自治連合会〈七条自治連合会〉	会長	西村 為彦
	浄土真宗本願寺派(西本願寺)	寺務所内務室課長	三輪 亨
	真宗大谷派(東本願寺)	宗務所総務部出仕	畠山 真
	(公財)角屋保存会	理事長	中川 清生
	西日本旅客鉄道(株)(JR西日本)	近畿統括本部京都支社総務企画課(地域共生)担当課長	平野 剛
	(学)龍谷大学	学長室課長	花崎 正順
	龍谷ミュージアム	事務部次長	太田 功